トレヴィーゾ取引所、IGTメルローとカベルネの指標価格をETG当たり0.30ユーロ引き下げ

11月17日の公報では、メルローはETG当たり5.00～5.50ユーロ、カベルネは6.00～7.00ユーロとされた

2026年11月18日（水）



イタリア北東部にあるトレヴィーゾ商品取引所の公式公報は、地理的表示付きメルローとカベルネの生産者向け指標価格のレンジを引き下げた。11月10日から11月17日火曜日にかけて、両カテゴリーとも下限・上限がそれぞれETG当たり0.30ユーロ下落した。

トレヴィーゾの産地市場では、11月17日火曜日のIGTメルローはETG当たり5.00～5.50ユーロとなり、11月10日の5.30～5.80ユーロから下落した。レンジの下限で5.66%、上限で5.17%の値下がりとなった。

IGTカベルネは11月17日火曜日、ETG当たり6.00～7.00ユーロとされ、11月10日の6.30～7.30ユーロから下落した。下限で4.76%、上限で4.11%の値下がりに相当する。

数値は、イタリア北東部ヴェネト州のトレヴィーゾ県で、農産物やワインの公式市場公報を発行するBorsa Merci di Trevisoによるもの。今回の公報には、従来型ワインの生産段階における参考価格が記載されており、蔵出し価格で付加価値税は含まれていない。

公報で用いられる単位はETGで、イタリア語で「ヘクトリットル・アルコール度当たりのユーロ」を表す略称だ。対象となるメルローとカベルネのアルコール度数は、容量比で10%から12%だった。

これらの価格は、単一の保護原産地呼称を対象としたものではない。公報ではブドウ品種ごとに価格をまとめており、地理的表示ごとの個別価格は公表していない。メルローとカベルネについて公表された価格レンジは、イタリア北東部で用いられるMarca Trevigiana、Veneto、Trevenezieの地理的表示で販売されるワインを対象としている。つまり、ここに示された数値は各品種の市場全般を示す参考価格であり、地理的表示ごとの個別価格ではない。

11月10日から11月17日火曜日までの値動きは、比較した4つの価格すべてで一律だった。メルローの下限と上限はいずれもETG当たり0.30ユーロ下落し、カベルネも同じ額だけ値下がりした。下落後も、公報に示された価格レンジ全体でカベルネはメルローを上回った。

トレヴィーゾの公報は産地における価格動向を把握する手掛かりとなるが、取引所自身が明示する制約もある。公報によると、価格は参考値であり、取引成立を示す書類による裏付けはない。そのため、実際に成立した取引の平均価格とみなすべきではなく、これだけで長期的な傾向が定着していると判断することもできない。

11月17日火曜日の公報に関連する資料には、前年同期との比較や累計変動率は記載されていなかった。確認できるのは11月10日から11月17日火曜日までの変化に限られ、この期間にトレヴィーゾ市場では赤ワインの2カテゴリーとも指標価格レンジが下落した。